

『セロ弾きのゴーシュ』宮沢 賢治／原作
植田 真／絵 あすなろ書房

数々の名作を残した宮沢賢治。「セロ弾きのゴーシュ」も代表作のひとつです。教科書で読んだという人も多いのではないのでしょうか。本の装丁や、植田真さんによる挿絵もとってもすてきです。あなたももう一度読んでみませんか？



仕事

今回は、働くことについて考えるきっかけになる本、ある職業を描いた小説など、「仕事」をテーマに本を紹介します。

春から新生活が始まった人も多いのではないのでしょうか。心機一転、図書館で新たな本との出会いはいかがですか？



『〈刑務所〉で盲導犬を育てる』
大塚 敦子／著 岩波書店

アメリカの女子刑務所で始まった介助犬訓練プログラム「プリズン・ドッグ」。日本でも全国に先駆けて島根県でこのプログラムが始まりました。

犬の訓練を通して人を信じる心を取り戻し、変わって行く人々を追った、希望にあふれた一冊です。

●ご感想、本の紹介など、中央図書館のヤングアダルトコーナーに設置されているポスト、または下記のメールアドレスにお寄せください。メール投稿の際は件名にYOUNG=JIN、本文に年齢・ペンネームを明記してください。

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。

編集・発行 長岡市立中央図書館 (0258-32-0658)

図書館HP <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>

図書館メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

スマホ
サイト→



←携帯
サイト



『大人はどうして働くの?』宮本 恵理子／編・著
天野 篤／ほか著 日経BP社

「働く」ということについて、さまざまな職業人からの提言をまとめた本です。作家の有川浩が「自分が楽しいから、好きだからではなく、誰かのために働く人はカッコいい」と言うとおり、働くことのさまざまな意味を考えはじめた人に、オススメです。



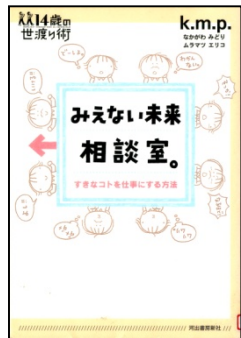
『菊池亜希子のおじゃまします 仕事場探訪20人』
菊池 亜希子／著 集英社

モデルの菊池亜希子さんが、さまざまな職業の有名人の仕事場を訪問します。芸術家、漫画家、映画監督、料理家……。仕事について知るきっかけになるのはもちろん、その方自身のことを魅力たっぷりにおしえてくれます。菊池さんの描く、仕事場間取り図がとても楽しいですよ！



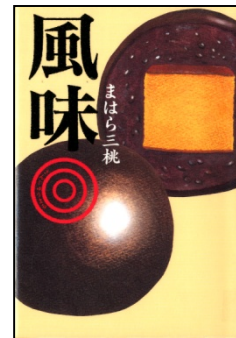
『神去なあなあ日常』三浦 しをん／著 徳間書店

高校卒業後「緑の雇用」制度に勝手に応募されていた勇氣は、林業をするため神去村に行くことに。そこで勇氣を待ち受けていたものは、自然だらけの山奥、乱暴な先輩ヨキ、毎日の大変な作業……。しかし、少しずつ自分に出来る作業が増え、林業という仕事に向き合っていくと勇氣の心に変化が。仕事に真剣に取り組むって、カッコイイ！！



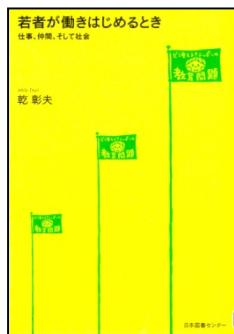
『みえない未来相談室。すきなコトを仕事にする方法』
k. m. p. /著 河出書房新社

「自分がやりたい職業ってなんだろう？」未来のことを考えた時に、悩むことはありませんか？まだまだ先のことですし、想像するのも難しいですよね。そんな時、この本がちょっとしたアドバイスをしてくれます。今の中学生、高校生時代を頑張れるヒントが詰まった一冊です。



『風味◎(さんじゅうまる)』まはら 三桃／著 講談社

長崎の老舗和菓子屋「一斗館(いっとあん)」の孫娘、風味(ふうみ)は、色が黒くてころころした「黒砂糖」系中2女子。ある日、店にB-1ならぬSS-1(シュガーロード・スイーツ)グランプリ参加のお誘いが来たからさあ大変。家業を巡る、心温まるストーリーです。



『若者が働きはじめるとき 仕事、仲間、そして社会』
乾 彰夫／著 日本図書センター

社会に出てまだ間もない頃は、分からないことだらけで、これでいいの？と不安になったりしますよね。職場の人間関係や、社会保障の仕組みなど、知っておきたいことを丁寧に教えてくれる本です。アルバイトをしたいと思っている人も、この本で知識を得ておくといいかも。

